

# 「故郷」の世界を広げる

## さまざまなる翻訳にふれる

「故郷」を翻訳した書籍は絶版になってしまったものも多いが、次に挙げる四冊は古書店等で比較的手に入りやすい。それぞれの「故郷」の冒頭部分を抜粋したので、比較して読みたい。



『故郷／阿Q正伝』  
（光文社古典新訳文庫）  
藤井省三 訳

僕は厳しい寒さのなか、二千里も遠く、二十年も離れていた故郷へと帰っていく。季節はもう真冬で、故郷へと近づくにつれ、空もどんよりと曇り、寒風が船内に吹き込み、ヒューヒューと音を立てるので、苫の隙間から外を見ると、どんよりした空の下、遠近にわびしい集落が幾つか広がっており、まったく生氣がない。僕は心の悲しみに耐えねばならなかった。



『阿Q正伝 藤野先生』  
（講談社文芸文庫）  
駒田信二 訳

わたしは厳しい寒さの中を、二千里も遠くから、二十余年間も別れていた故郷へ帰っていった。季節はもう真冬で、故郷へと近づくにつれて天気もわるくなり、冷たい風が船舱の中へ吹き込んできて、ヒューヒューと鳴った。篷の隙間から外を眺めると、暗く黄色っぽい空の下に、わびしい寒村があらこちに横たわっている、何の活気もなく、わたしは心の中にいたまじさのこみあがっているのをどうしようもなかった。



『阿内正伝』  
（中公文庫）  
高橋和巳 訳

厳しい寒さをおかして、二千里をへだて、二十余年間無沙汰をしていた故郷へ、私は帰った。季節は真冬、故郷に近づくにつれて、天気もくずれ、冷たい風が船舱に吹き込んで、ウウと鳴った。篷の隙間から望むと、灰黄色の空の下、あちこちにさびげな村々が横たわり、なんの活気もない。とどめえずして私の心に悲哀が起る。



『阿Q正伝』  
（角川文庫）  
増田渉 訳

私は厳しい寒さを冒して、二千里も隔った、別れて二十何年になる故郷に帰った。時はもう冬の最中だ、だんだん故郷に近づくにつれて、空模様は暗く曇ってきて、冷たい風が船舱に吹き込み、ウーウーと鳴る。篷の隙間から外をながめると、蒼く黄ばんだ空の下に、遠く近く幾つもさびしそうな寒村が横たわっている、一点の活気もない。私の心は悲しく、うそ寒くなってくるのを禁じ得なかった。

## 魯迅を訪ねる

### 東北大学史料館 魯迅記念展示室

魯迅は二十三歳のとき、仙台医学専門学校（現在の東北大学）に入学した。当時の貴重な資料から、魯迅の学生生活を垣間見ることができよう。

- アクセス：仙台駅からバスで十分。東北大学片平キャンパス内。
- 開館時間：11時～17時
- 休館日：土曜・日曜及び祝日
- 入館料：……無料

